

## 2023年度

|                    |  |
|--------------------|--|
| 科目名称               | 動物園動物飼育展示論   |
| 授業コード              | AC315  |
| 英語名称               | Zoo animal management  |
| 学期                 | 2023年度前期   |
| 単位                 | 2.0  |
| 担当教員               | 野田 英樹 (生命環境学部)   |
| 記入不要<br>ナンバリングコード  |  |
| 授業の概要              | 動物園の成り立ちと歴史を踏まえ、実際に動物園で飼育される動物たちを取り巻く現状や、これからの動物園に求められる役割について基礎的な知識を得る。そのうえで実際の飼育舎や展示場を参考に、各種動物園動物の基本的な管理方法を学ぶ。また「伝わる」展示手法や展示デザインについても議論を交わしながら学ぶ。   |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | 公立動物園で飼育展示業務と企画教育業務に携わった経験および環境行政官の経験を活かし、動物飼育の現状や動物に関わる各種法令と動物園の関係について教授する。   |
| 到達目標               | 【科目特有の知識・技能についての到達目標】<br>アニマルサイエンス学科のカリキュラムポリシーである「動物と人との共生」を深く考えるため、以下の目標を設定している。<br>1. 「動物園動物を飼育すること」の基本的な手法について理解する。<br>【汎用能力としての学士力についての到達目標】<br>2. 動物園の役割について、動物飼育運営側の視点から深く理解する。   |
| 計画・内容              | (1) オリエンテーション (講義の進め方、動物園動物のイロハ)<br>(2) 動物園の歴史と現在 (鳥獣保護管理法関連を含む)<br>(3) 動物とのふれあいと動物福祉 (動物愛護法関連を含む)<br>(4) 希少種保全とこれからの動物園の役割 (種の保存法関連を含む)<br>(5) 動物園動物飼育各論 (大型草食獣)<br>(6) 動物園動物飼育各論 (小型哺乳類) (肉食獣)<br>(7) 動物園動物飼育各論 (霊長類) (有袋類その他)<br>(8) 動物園動物飼育各論 (希少鳥類)<br>(9) 動物園動物飼育各論 (猛禽類・小型鳥類)<br>(10) 動物園動物飼育各論 (爬虫類)<br>(11) 動物園動物飼育各論 (両生類)<br>(12) 動物園動物飼育各論 (魚類・無脊椎動物)<br>(13) 展示デザイン (エンリッチメントと普及啓発)<br>繁殖計画と個体群管理 (持続可能な動物園)<br>(14) 動物園の運営計画 (理想の動物園像)<br>(15) まとめ (テスト) |
| 授業の進め方             | 講義内容をもとに小テストを出題する。講義資料は小テスト後に配布する。講義中は随時意見を求めるため指名することがある。<br>講義終了後、次回講義までに小テストを提出する。  |
| 能動的な学びの実施          | 講義は双方向性を目指すため、常に自身の考えを持つことが望ましい。講義中にも随時発言を求める。   |
| 授業時間外の学修           | 講義終了後は小テストを期限までに実行する。また、最終テストに備え配布された講義資料を確認しておく。  |

## 2023年度

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 教科書・参考書                            | 村田浩一ら訳「動物園学」、村田浩一ら編「動物園学入門」、新・飼育ハンドブック（日本動物園水族館協会）等   |
| 成績評価方法と基準                          | 小テスト（50％）、最終テスト（50％）の合計により判定  |
| 課題等に対するフィードバック                     | 小テストで多くの受講者で理解不足であった点に関しては、次回以降の講義時に補足する。   |
| オフィスアワー                            | CampusSquareを参照   |
| 留意事項                               | 小テストでは毎回の講義冒頭で紹介される動物種に関する出題があるため、遅刻をすると回答できなくなる。   |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | <p>対面授業用資料を映像化し、講義形式の動画に組み込み、配信する。オンデマンド型を基本とする。質疑については、課題提出時に質問ができ、コメント欄での回答を個別に行う。</p> <p>評価は、対面授業と同一のミニ課題提出により「出席」とみなし、出席点は50点を満点とする。また、中間（8週目および15週目）におけるレポート内容により50点とする（8週目課題で25％、15週目課題で25％）。</p> |